

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクトの実施と防災冊子の製作

【事業ニーズ】

防災については、東日本大震災以降もそれ以前も、地域の町内会を基盤とした自主防災組織やまちづくり協議会、市民館等での学習会、防災訓練など、市内各所で力を入れている。しかし、男女共同参画の視点からの具体的な防災への取組みは、防災計画へ一文が追加されたものの、具体的な取組みや実践は未着手の状態である。

一方、昨年度から実施している、東日本大震災により川崎市に避難を余儀なくされている方への避難者支援（避難所支援及び物資提供、女性とこどもの避難者サロン）の結果を受けて、都市部である川崎市の特性を踏まえながら、特に災害時に女性が置き去りにならないよう、女性の労働負担の軽減、生活の早期再建、女性の人権の確保に向けて、男女共同参画の視点から防災のまちづくりを進めていく必要性を強く認識してきた。

具体的には、男女のニーズの違いを知らせながら、自助力を高めるための具体的な備え方を提案し普及させていくこと、女性の防災・減災・災害時のリーダーの養成、男女双方が防災対策、防災計画等の合意形成に参画できる仕組み、避難所運営（プライバシーと相談体制の確保）における配慮と対策、備蓄物資（女性の視点に配慮した備蓄物資の整備、強化）等があげられる。

■調査目的

男女共同参画の視点から防災に取り組むためのアクション・リサーチを行う。男女共同参画センターとして、どのようなプロセスで、どこから着手し、誰に、どのようにアプローチをすべきか、役割と機能を明確にして実践しながら、そのプロセスを分析・発信することで男女共同参画の視点からの防災への具体的な課題解決につなげる取組みを提案する。

■調査概要

【対象】防災について関心のある市民及び防災対策の担い手となっている市民

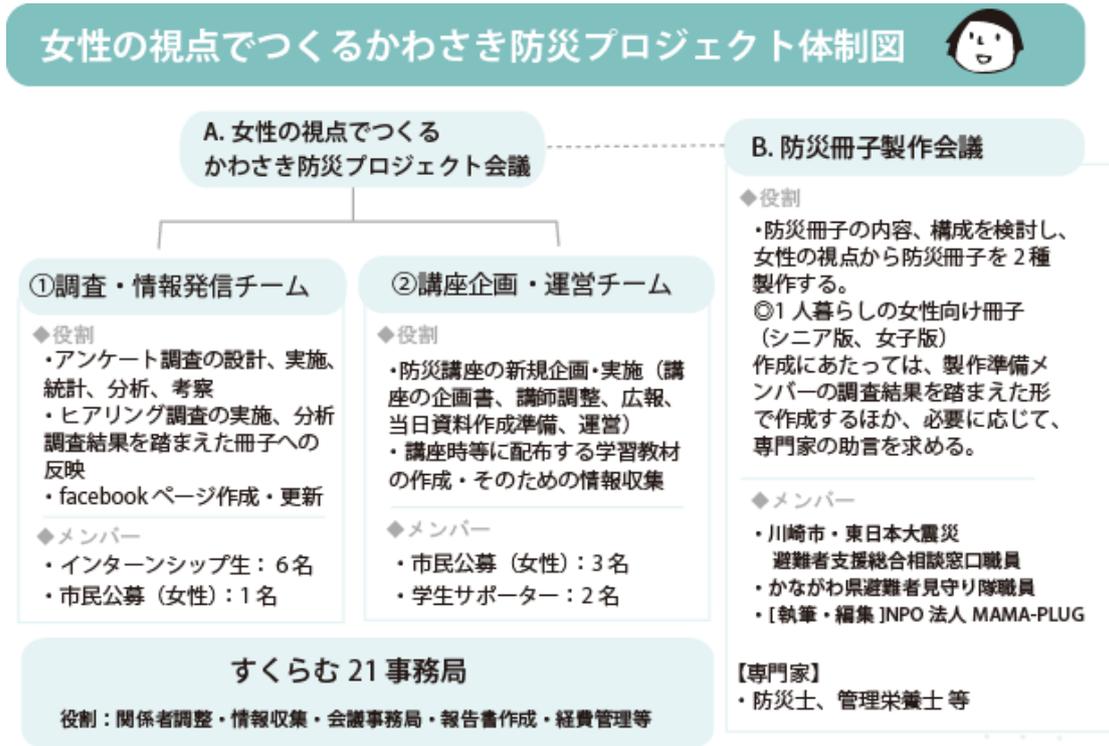
【方法】課題を把握し、実践につなげるため、調査方法としてのアクション・リサーチ手法

【内容】

- ① 「女性の視点を活かした防災冊子の製作」という具体的な成果物を手掛けるための調査研究プロジェクトとして、設計する。
- ② ①のプロジェクトに賛同する市民メンバーや協力者を募る。
- ③ 調査研究・学習・実践ができる仕掛けとして、冊子という成果物づくりと男女共同参画の視点からの人材育成や講座等の学習会の実践を並行して行う。
- ④ 単年度の事業とせず、次年度以降も継続した取組みにつなげると同時に、市内の既存の取組との融合や防災計画等へ反映できる事業展開を目指す。
※人材育成や講座等の学習会の実践については（学習研修事業・すくらむ塾）にて報告する。
- ⑤ その過程を分析・発信することで、男女共同参画の視点からの防災への具体的な取組みを提案する。

【実施期間】2012（平成24）年8月～2014（平成26）年3月

■実施体制図



■調査結果の概要

①女性の視点を活かした防災冊子製作プロジェクトの実施

「自助力を高めるための防災冊子の製作～利活用を想定した人材育成へのアプローチ」

冊子という成果物を作成することに注力するのではなく、それらを活用する方法やその利活用をするなかで市民が学習し、普及の担い手として参画していくことを前提に「防災冊子の製作準備プロジェクト」という名称にし、メンバーを募集した。（※最終的には、上記の図にある通り、「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト会議」に変更した。）実施にあたって、オリエンテーションを開催し、どのような役割を担ってもらうのかを説明し、理解を求めた。その後、月1回の会議を開催したが、参加者が主体的に動くことを前提として、センター職員による情報提供や資料収集、書籍貸し出しにとどまらず、参加者自身が検討したい事項についても提案する形をとった。少人数の中でも役割を決め、何をゴールとするのか、具体的に話し合いながら、検討した。防災冊子の製作については、webでの公開に向けた防災冊子の内容、対象、構成についても検討した。

その結果、女性の視点を活かした防災冊子の製作については、災害弱者となりやすい一人暮らしの高齢女性、若年女性に対象を絞り作成することとなった。さらに、高齢女性へは誌面案をもとにレクチャー付のヒアリング調査、及び一人暮らしの女子大学生・20～30代の若年女性については個別ヒアリングとアンケート調査を実施した。アンケート調査票の作成には、大学生の男女メンバーが取り組むこととした。いずれも、選択肢を用意した上で、各参加者の自主性を尊重しながら、合意形成を図る形で会議を進めており、その結果、参加者が会議以外の日程に学習会を設けたり、打ち合わせを行ったりするようになった。市内で開催されるセミナー等に積極的に参加し、講座企画を手掛ける段階になると、講座の中に実験（簡易トイレの使い勝手）を盛り込む、そのために練習をする、より良い方法を検討するなど具体的な動きが出てきた。大学生は就職活動期間と重なるため、3年生の男女学生はソーシャルメディアを使って会議を行い、調査結果の分析を行った。一方、大学2年生の社

会教育実習生の2名は、研修期間中に企画した「食」「防災グッズ」についての新規講座を実施するため、研修後にすくらむ21の学生サポーターとして継続登録し、講師打ち合わせからチラシ作成・広報、講座を実施する一連の流れに部活や授業の合間を縫って積極的に参加し携わった。

※会議の記録は、学習研修事業の「すくらむ塾」に別掲載

② 女性の視点を活かした防災冊子の製作

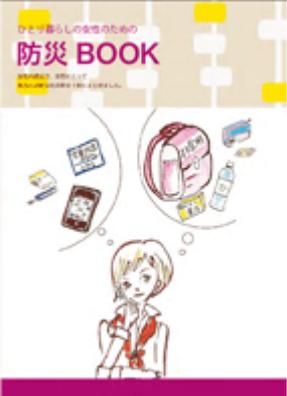
・冊子種類

- 一人暮らしの若年女性版:A5版、フルカラー 20 ページ
- 一人暮らしの高齢女性版:A4版、フルカラー 20 ページ

・冊子の対象者

日常的に地縁・血縁に頼りにくい状態にあり(家族が遠方、パートナーと死別、シングル等)、情報弱者になりやすい人、さらに、経済的貧困、性暴力等の暴力被害や人権侵害を受けやすい人、また、声をあげにくく意思決定等において置き去りにされやすい人、心身のストレスを抱えやすい立場におかれやすい一人暮らしの女性を対象とする。先行調査の事例、冊子類などでは扱いが少ないことも、これらの対象者を取り上げる理由である。

・冊子に盛り込んだ内容

一人暮らしの若年女性版 「ひとり暮らしの女性のための防災 BOOK」	一人暮らしの高齢女性版 「女性の視点で作った防災手帖 シニア版」
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の視点で考える防災 ・地震が起きた時の行動 ・外出先からの帰宅方法 ・自宅の危険度チェック、緊急連絡先確認 ・オリジナル防災マップの作成 ・女性の防災グッズを考える ・地震が起きた時の女性にとって必要なアイテム ・ファッションに防災の視点を ・防犯対策 ・スマートフォン活用で防災 ・震災時の行動(大学生アンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズ ・避難場所の確認、緊急連絡法 ・自宅の危険度チェック ・自宅で被災、外出先での被災 ・地震が起きた時の行動 ・避難所の活用方法、避難の基準 ・自宅避難生活、トイレ事情 ・避難所での避難生活 ・被災時の防犯 ・ご近所ネットワーク ・緊急時のメモ
	

- ・実施時期:2012(平成 24)年 11 月～2013(平成 25)年 3 月末
- ・製作団体:NPO 法人 MAMA-PLUG
- ・製作メンバー:すくらむ 21 事務局、かながわ県避難者支援見守り隊、川崎市東日本大震災避難者支援総合相談担当者、オブザーバーとして、女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト会議メンバー、専門家:女性防災士の協力を得た。
- ・製作方法と製作会議

日時	内容
12/20(木)14 時 00 分～16 時 00 分	プレ会議 ・防災冊子製作準備メンバーからの意見収集
1/12(土)16 時 00 分～17 時 00 分	第 1 回 防災冊子製作会議 ・一人暮らしの高齢女性向けの防災冊子案の内容についての検討・情報整理、現場ヒアリングに向けて資料確認
1/22(火)14 時 30 分～16 時 00 分	第 2 回 防災冊子製作会議 ・一人暮らしの高齢女性向け冊子における防災冊子のレイアウト確認、内容、表現についての校正
2/6(水)10 時 30 分～12 時 00 分	第 3 回 防災冊子製作会議 ・一人暮らしの若年女性の調査結果を踏まえた防災冊子に盛り込むべき内容についての整理
3/6(水)14 時 00 分～16 時 30 分	第 4 回 防災冊子製作会議 ・2 冊の防災冊子の校正作業、内容確認 冊子内容の精査、関係機関への確認作業